

無縁坂

作詞作曲:さだ まさし

母がまだ若い頃 僕の手をひいて

この坂を登るたび いつもため息をついた
ため息をつけば それで済む

後だけは見ちゃだめと

笑ってた白い手は とてもやわらかだった

運がいいとか 悪いとか

人は時々口にするけど

そいういふところで確かにあると

あなたを見ててそう思う

忍ぶ 忍ばず 無縁坂 かみしめるような

ささやかな 僕の母の人生

いつかしら僕よりも 母は小さくなった

知らぬまに白い手は とても小さくなった

母はすべてを 暦に刻んで

流して来たんだろう

悲しさや苦しさは きつとあったはずなのに

運がいいとか 悪いとか

人は時々口にするけど

めぐる暦は季節の中で

漂いながら過ぎてゆく

忍ぶ 忍ばず 無縁坂 かみしめるような

ささやかな 僕の母の人生